ウクライナ人道危機救援
～理学療法士の質の標準化への支援～

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
国際医療救援部　理学療法士
中島　久元

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society


©ウクライナ赤十字社
ウクライナ人道危機


©ウクライナ赤十字社
ЗАГІН ШВИДКОГО РЕАГУВАННЯ


©ウクライナ赤十字社
Photo: Patryk Jaracz


©ウクライナ赤十字社



©WHO

Ukraine: 3 WHO humanitarian warehouses destroyed in 3 months

ウクライナ赤十字社地域リハビリ提供の経緯

April/2023	Feb/2024	2025年	2026年
地域でのリハビリ提供を宣言	訪問リハビリ等事業開始	地域、事業の拡大	リハビリ質の強化

日本赤十字社：理学療法士を派遣し、技術的支援を提供



ウ赤、地域リハビリ提供を宣言



地域リハビリ提供への計画



現地理学療法士への研修



理学療法士の能力チェック



①訪問リハビリ（MRU）



②リハビリ補助具の提供



③リハビリスペース



④リハビリ関連の研修（トレーニング）



⑤リハビリに関する啓発活動

ウ赤地域リハビリ提供における課題点

1．訪問リハビリはサービスを届けられる受益者の数が限定的となってしまう、より多くのリハビリを必要とする受益者にリハビリを提供したい

2．依然経験の少ないリハビリ人材が多く、また、個々によって知識、技術などにギャップがある

3．病院から退院し継続したリハビリが必要な人などが地域に戻る際、リハビリサービスに繋がるためのリフェラルシステムが制限的

4．国の地域リハビリに関する方針がまだ不明瞭

ウ赤地域リハビリ提供における課題点

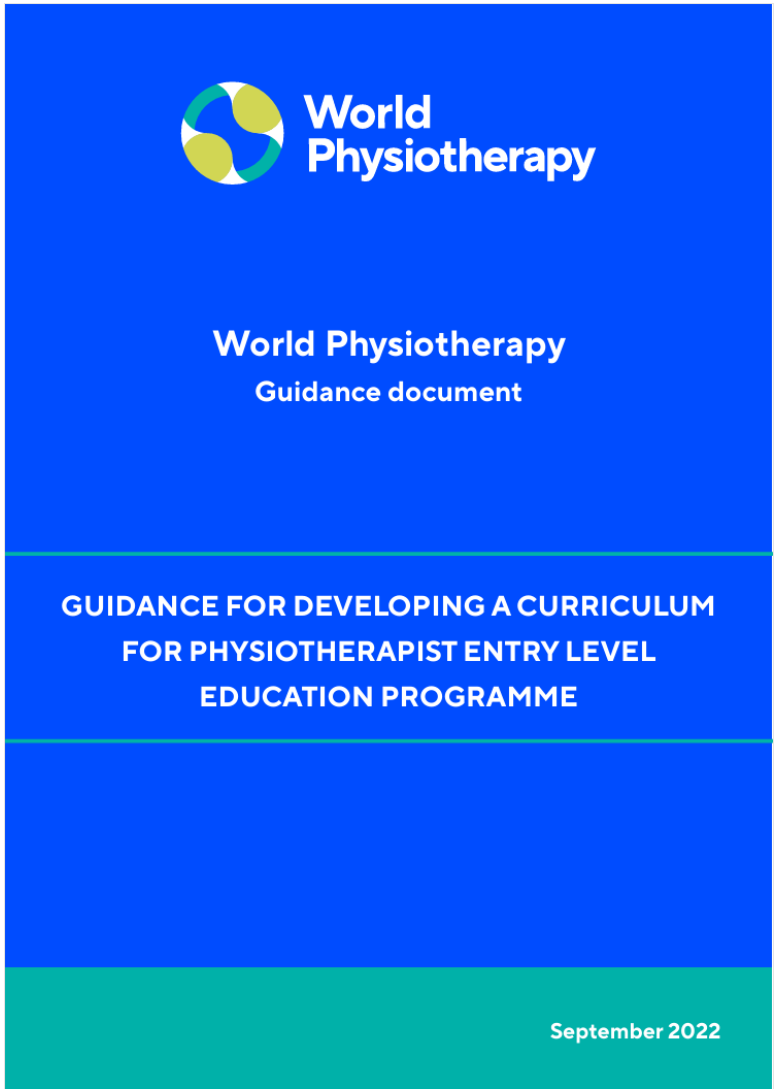
1．訪問リハビリはサービスを届けられる受益者の数が限定的となってしまう、より多くのリハビリを必要とする受益者にリハビリを提供したい

2．依然経験の少ないリハビリ人材が多く、また、個々によって知識、技術などにギャップがある

3．病院から退院し継続したリハビリが必要な人などが地域に戻る際、リハビリサービスに繋がるためのリフェラルシステムが制限的

4．国の地域リハビリに関する方針がまだ不明瞭





Професійний стандарт
ФІЗИЧНИЙ ТЕРАПЕВТ

(дата внесення до Реєстру кваліфікацій)

ЗАТВЕРДЖЕНО

Розробником Громадською організацією «Українська Асоціація фізичної терапії», наказом голови Правління № 01/24-ПС від 27.11.2024 р.

Професійний стандарт розроблено та затверджено згідно з вимогами статті 4^2 Кодексу законів про працю України на підставі:

- висновку Національного агентства кваліфікацій, схваленого рішенням Агентства № 14 від 20.11.2024 (відповідно до протоколу засідання Агентства № 46 (186) від 20.11.2024), про дотримання під час підготовки проєкту професійного стандарту вимог Порядку розроблення, введення в дію та перегляду професійних стандартів, затвердженого постановою Кабінету Міністрів України від 31.05.2017 № 373;
- висновку Спільного представницького органу репрезентативних всеукраїнських об'єднань профспілок на національному рівні (СПО об'єднань профспілок) від 29.10.2024 № 01-12/749-СПО про погодження проєкту професійного стандарту «Фізичний терапевт».

	呼吸、循環機能：呼吸パターン、呼吸筋の使用、息切れ、胸痛の有無等を Assessment する
	ROM：Assessment が必要な関節に対し、正確に、適切に可動域 Assessment を行う
	MMT：Assessment が必要な筋に対し、正確に、適切に筋力 Assessment を行う
	Other Assessment：疾患や状況に応じてその他 Body Function and Structure に関する Assessment を適切に行う
◆参考文献 ・World Physiotherapy: Appendix 1、1.1 ・APTA：Tests and Measures ・WHO RCF："Practice", A3.3 A3.5 / Activity-specific knowledge, A3 Methods of assessment, such as testing, measurement and evaluation, and when these are applied / A3 Methods of scoring standardized assessments relevant to scope of practice ・Ukraine PSPT：V. Б 1. У 1	
1-3 ☑	基本動作評価を適切に実施する
	Rivermead Mobility Index を用いて、各動作を実際に患者に行ってもらう、または口頭質問にて介助を要するかを適切に評価する
	基本動作に関する本人、家族のニーズを問診する
◆参考文献 ・WHO 版：A3.3 / Activity-specific knowledge: A3 Methods of assessment, such as testing, measurement and evaluation, and when these are applied / A3 Methods of scoring standardized assessments relevant to scope of practice ・World Physiotherapy　Appendix 1、1.1 ・APTA：Tests and Measures ・Ukraine PSPT：V. Б 1. У 1	
1-4 ☑	Activities of Daily Life Assessment を適切に実施する
	Barthel Index を用い、患者、または家族からの聞き取り、実際の動作を見てどの項目にどの程度の介助が必要かなどを適切に評価する
	日常の過ごし方、本人、家族のニーズなどを問診する

◆参考文献 ・WHO 版：A3.5 / Activity-specific knowledge: A3 Methods of assessment, such as testing, measurement and evaluation, and when these are applied / A3 Methods and techniques to conduct assessments and environmental analysis relevant to scope of practice, including how to use relevant instruments or devices ・World Physiotherapy　Appendix 1、1.1 ・APTA：Tests and Measures ・Ukraine PSPT：V. Б 1. У 1	
1-5 ☑	自宅環境、介助者有無、本人嗜好、社会的資源等を適切に評価する
	屋内、屋外の生活環境に本人の生活を制限するものがあるかを Assessment する
	屋内、または屋外での社会的活動や他者との交流を行っているか、行っていればどのように行っているかなどを Assessment する
	社会参加に対する患者、家族のニーズを問診する
	患者の社会参加において使える社会資源の検討をする
◆参考文献 ・WHO 版：A3.5 / Activity-specific knowledge: A3 Methods of assessment, such as testing, measurement and evaluation, and when these are applied / A3 Methods and techniques to conduct assessments and environmental analysis relevant to scope of practice, including how to use relevant instruments or devices ・World Physiotherapy　Appendix 1、1.1 ・APTA：Tests and Measures ・Ukraine PSPT：V. Б 1. У 1	
1-6 Strengths（Informed Consent and Rehabilitation Assessment Area の中で、より優れていると考えられる項目、ポイントなどを簡潔に記入）：	
1-7 Areas for Development（Informed Consent and Rehabilitation Assessment Area の中で、今後学ぶことにより、より向上できる項目、ポイントなどを簡潔に記入）：	

理学療法士（PT）たちの能力チェックリスト

- セルフチェック（自分でチェック）、ピアチェック（他のPTをチェック、またはからチェックしてもらう）を通して、共通理解を促す
- 各PTの能力を評価、比較するものではなく、自分の強みやより向上できる部分を把握し、今後の学習に活かしてもらうためのもの
- 見つかった弱みに対し、研修などで学習を促す。⇒PTたちの能力向上、ウ赤リハビリ全体の質の担保を促進させる







PT Focal Pointsの設置

◆地域リハビリを展開するウ赤PTの中から４～５人のフォーカルポイントを決め、地域リハビリの促進、質の担保、人材育成を図る

◆目的／役割

・PT能力チェックの実施促進、モニタリング

・ウ赤本社PTと連携を図り、地域リハビリサービス向上に向けた検討、研修企画

・本社PTのタスクシェアを図りつつ、より多くのメンバーでのウ赤地域リハビリへのオーナーシップを促す

ウクライナ赤PTの能力チェックにおける今後の展開

- ウ赤本社PTが２～３州のPTに対し能力チェック（Peer check）を実施
- 結果からPTたちが今後より向上が必要と考えられるトピックを選出
- 来年度選出したトピックに対してPT/PTAに対するトレーニングを実施







ありがとうございました

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society





